

第3回 都心活性化プランに関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

都心活性化プランに関する懇談会

2 開催日時

平成28年2月9日（火）午前10時～午前12時

3 開催場所

ホテルグランヴィア広島3階 天平の間

4 出席者

(1) 委員

委員11名中全員出席 代理出席2名

（谷村委員の代理として、広島商工会議所 下平 地域振興担当部長が出席）

（野田委員の代理として、国土交通省中国地方整備局 松浦 地方事業評価管理官が出席）

(2) 事務局

広島県：地域政策局長、地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議事

都心の将来像等について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者1名 報道関係者2社

8 懇談会資料名

次第

資料1 都心の将来像の設定に向けた考え方について

資料2 都心の将来像等について

参考資料1 都心の現状について（追加分）

参考資料2 都心の特性に係るアンケートの結果

参考資料3 都心の将来に関する意見の整理

参考資料4 議会における都心活性化プラン（仮称）に係る意見や提案

参考資料5 都心のまちづくり“ひろしまワールドカフェ”

みんなで話そう～だえんの未来～ 報告書

9 各出席者の発言の要旨

議事

都心の将来像について

【塚本座長】

- ・ 第3回ということで、この懇談会で何をやるのか、ある程度見えてきた部分もあるが、都心活性化プランは非常に大きな計画である。
- ・ 行政では発想できないような事や、行政が取り組むために、様々な方のご意見を行政に伝えていくことが、この懇談会の趣旨であると思うので、皆様の活発なご意見をいただきたい。
- ・ 資料1「都心の将来像の設定に向けた考え方」について事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

— 資料1に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ これは前段の位置付けについての話であるが、ご質問やご意見があればお願いします。

— 発言なし —

【塚本座長】

- ・ 資料2「都心の将来像等について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】

— 資料2、参考資料1、参考資料2、参考資料3に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ 前回、前々回の懇談会の内容等を踏まえて、一つは、都心の現状・課題として、もう一つは、都心の将来に求めるものからいくつかのキーワードを出し、それらを踏まえて、都心の将来像についての基本的な考え方、都心の将来像等について整理していただいた。
- ・ 事務局より示していただいた「誰もが生き生きと輝き、平和を感じる都心」のように、目標となる都心の将来像についてのご意見をいただくことが、この懇談会の大きなテーマであると思う。
- ・ それらを導き出していくために、皆様からのご意見等を踏まえ、目指す姿として三つのキーワード「にぎわいと交流を生み出す」「往来しやすく回遊できる」「安全・安心で快適に生活できる」を提示していただいている。それぞれ皆様がどんなことを発言されたかを思い出していただくと見えてくるのではないかと思います。

- ・ 主な取組の方向性を記載しているが、これは行政が行っていく施策で、場合によっては、市民自らが都心のために何かをやっていこう、それぞれの思いを実現させようというものであると思う。ただし、これは計画の中で、手段に近いものだと思う。
- ・ そうした意味で、一つは、目指す姿について、どのように思っているか、もう一つは、誰がどんなことができる都心であったほしいか、ということについて、ご意見をいただきたいと思う。
- ・ 例えば、最初に、200万人広島都市圏構想の話があったが、西は柳井市から周防大島、東は世羅町から三原市まで、圏域の人たちがいつも広島の都心に等しく来られるようになるわけではないので、こうした広域の中で、広島の都心が、どのような時に、どのように利用されればいいのか。
- ・ また、中国地方、もしくは、日本中の人、もしくは、欧米系の外国人の来訪が増えているといった特色がある広島において、どのような人がどのような目的で、この広島の都心を使えるようになったらいいのか、この辺りが、この懇談会のポイントであると思う、
- ・ 広島市のなかでも、西風新都でも良いものと、都心でないといけないものが、多分違うのではないかということもあると思いますので、そういったことを踏まえ、それぞれの立場からの思いやご意見を語っていただきたい。

【下村委員】

- ・ 参考資料1の商業の課題において、広島市の百貨店等の商業施設は他都市に比べて少ないとなっているが、広島市の商業施設の6という数字には、「シャレオ」や「アクア」等の商業施設は含めてカウントしているのか。フジや皆実町のゆめタウンなどの大型施設が複数ある中で、6という数字はおかしいのではないか。

【事務局】

- ・ 一定規模を有する百貨店等の商業施設の数については、日本百貨店協会加盟店の大手百貨店グループの店舗及び全国大型小売店総覧 2014 のリストにある施設のうち都心に立地する10,000㎡以上のものを対象としており、フジなど都心の周辺に立地する商業施設はカウントしていない。
- ・ シャレオやアクアについても、日本百貨店協会加盟店の大手百貨店グループの店舗ではなく、全体でみれば大きいですが、一つ一つの店舗面積は小さい専門店街であるため、カウントしていない。
- ・ 6の内訳は、三越、そごう、福屋八丁堀本店、エールエールA館、パルコ、サンモールである。

【下村委員】

- ・ 日本百貨店協会加盟店ということで、東急ハンズやアクア等の店舗は入っていないということであるが、広域的な集客力が見込める施設ということであれば、広島市全体でみれば、完全にオーバーストアの状態なので、課題として、このような比較は不適切ではないか。

【事務局】

- ・ 一定規模を有する施設が、広域的な集客力を見込めるかどうかという問題もあるが、大規模な店舗であれば、必然的に魅力的な店舗も多くなり、集客力があるのではないかとということで、一定規模を有する施設に絞らせていただいている。
- ・ ファッションブランドショップの比較についても、これをもって広域的に集客が見込めると言えるか、定義として難しい面もあったが、何かの形で分析したいと思い、若い世代を遠方からひきつけるということであれば、ファッションがポイントになるのではないかと考え、このようなデータを提示させていただいたものである。
- ・ これで広島の魅力がないと言い切れない部分もあるが、一つの比較として提示させていただいている。

【下村委員】

- ・ 言われることは分かるが、オーバーストアの実態がある中で、大規模な商業施設が都心に欲しいといった結論になるように捉えかねないので、やはり、課題として不適切であると思う。

【事務局】

- ・ 広域的な集客力が見込める商業の状況について、その全貌を把握することは困難であるため、一定の基準のもとに比較させていただいた。
- ・ 委員ご指摘のとおり、広島市はオーバーストアであるといったことをお聞きしており、都心の課題というより、都心の現状といった表現で記載させていただきたい。

【塚本座長】

- ・ 皆様の中でも、この課題の捉え方はおかしいのではないかといったご意見があれば、あわせて発言をお願いしたい。
- ・ それでは、引き続き、伊藤委員よりお願いしたい。

【伊藤委員】

- ・ 目指す姿の中で、市外からも多くの人を呼び込むといったキーワードもあり、参考資料2の中で、外から広域的な人を呼び込むということで、交通に関する分析が行われているが、このことについてコメントさせていただきたい。
- ・ 他の100万都市と比較した場合、地理的な立地の特性や、周辺にどれくらい人がいるのかといったことが、当然、違ってくる。他と比較して、広島はどうかといったこともよいが、広島の状況として、どれだけのエリアから集客力があるのかをしっかりと評価した上で、広島の特徴を考えた方がよい。
- ・ 広島の高速バスの便数が少ない、運賃が高いといった比較もよいが、広島の後背地がどれだけあって、そこに何万人くらいの人がいて、広島に引き寄せるための交通整備がしっかりとされているのかを考えていくことだと思う。
- ・ どれだけ交流する人がいて、その中で、その人たちをどのように呼び込むかについての戦略

を考えた方が良くと思うので、単に、便数や運賃の問題ではない。

- ・ 運賃についても、中国地方は、新幹線ぐらいいしかまともな鉄道が繋がっていないので、どうしても高速バスでないと人が輸送できないといった状況があり、競争相手がいないといったことで、運賃が高くなるといった傾向にあるのだと思う。
- ・ そうしたことも含めて、広島がどういった場所から人を集められるのかということを客観的に考えた方が良くと思う。

【小谷委員】

- ・ 資料2の目指す姿について、よくまとめられていると思う。
- ・ 200万人広島都市圏構想ということで、遠方から広島に来てもらうことを考えた時に、例えば、博多に行った場合には、博多駅周辺、天神周辺やキャナルシティなどで、最低、半日以上の時間が潰せる。
- ・ 広島の場合はどうかと言うと、例えば、先日の土日に旧広島市民球場跡地で大きなイベントがあったが、行ってみると、たくさんの人が集まって良いなと思ったが、人が混み合っていて、早く出たいという気分にもなった。それで、周辺に行ってみると、周辺でも人が多くて、長くいたいという気持ちにならなかった。
- ・ つまり、200万人広島都市圏から人を呼び込んでいくことを考えていく上で、広島に行ってみると、ワクワクすることができ、半日以上過ごせる何かがないといけない。菓子博のときも思ったが、イベントがあって人が集中すると、そうした印象が非常に強い。
- ・ これを打破するためには、イベントでたくさんの人が来た時、イベント会場以外の周りの場所も、それを巻き込み同じような動きをすることで、遠方から来て良かったという印象を受けてもらうことができるのではないかなと思う。
- ・ どちらにしても、目指す姿として提示しているこの三つが全てと思う。にぎわいと交流を生み出すことによって、人を呼び込み、回遊できる街をつくれれば良いなと思う。この三つに沿って色々とまとめていけば、活性化に向けた動きになると思う。

【佐藤委員】

- ・ 私もワールドカフェに参加させていただいた。ワールドカフェに参加した100人の皆様のご意見を平均的にまとめるのではなく、少々、強引に整理してみてもどうかといった意見もあった。
- ・ 広島は、平和都市だから、原爆が落ちた街だから、多くの観光客が来ていただいているということをもう少し強調していければと思う。
- ・ 市民全員が平和都市ということを語れていない。そこを語れてこそ、他と違うまちづくりができると思う。
- ・ 商業施設等のハコがいくらあっても、誰がそこを利用するのかということも踏まえ、広島らしい特徴がないと人は集まらないと思う。
- ・ ハコはこれからの目標の中で、たくさん揃えてくださるのだと思うが、そこに誰が集うのかを考えつつ、特徴を決めていく必要があるのではないかなと思う。

- ・ 国内外の人には、広島は平和都市としてのイメージでせっかく植えつけられているので、そこを強調していただきたいと思う。
- ・ 例えば、交通渋滞で問題であるのならば、観光客をマイカーで連れて行きましょうといったボランティアなど、色々なボランティアを募って、広島市民のワクワク・生き生き感を打ち出してはどうかと思う。
- ・ ワールドカフェのあと、社内に帰って主婦の方々と話をしたときに、自分たちが子どもたちに平和都市といったことを語れていないといった意見が多かった。「大学等の様々なボランティアが活動を繋ぐ」とか、「1日でもよいので、平和都市を考える日を持とう」とか、何か広島として強引にこうしたことをしていこうというものを打ち出してこそそのハコの整備だと思うし、ハコの中で何をしていくかが重要だと思う。
- ・ 将来像に、もう少しエッジをかけられればと思う。
- ・ 「平和を感じる」ではなく、人が、市民が全員、口々に平和を語れるまちづくりをしてこそ、国内外の人が呼び込める。誰に聞いても、「広島の人には平和の事が誰でも答えられるよね」といったまちづくりが見える目標にしていなければならないと思う。

【下村委員】

- ・ まず、先日の旧広島市民球場跡地でのイベントについて、私も行ったが、あそこのイベント会場の作り方等については、少し課題があるのではないかと主催者の方には伝えておいた。
- ・ 土日で4万人程度と、非常に多くの方が来られていて、楽しんでいた。それに加えて、あそこから溢れた方々が、センター街やそごう、シャレオの食堂街に流れて行っており、そういう意味では、回遊ができており、良いイベントだった。
- ・ 加えて、将来像については、よくまとめられていると思うが、もう一つ、市外から多くの人を訪れると言う意味で、広島市は、MICE(Meeting, Incentive travel, Convention, Exhibition/Event)の誘致を強化する都市になっているが、広島市では3,000人規模のコンベンションができる場所がないということが一つの課題である。
- ・ ハコモノを作ることが良いのかという別の問題はあるが、そういうものによって、人を集めて賑わいをつくる。例えば、旧広島市民球場跡地に市が提案している、屋根付きのイベント広場を利用して3,000人規模の会場にすれば、平和を感じる場所が隣にあるので、他の都市から来ていただいた方々に、必ずそちらを見ていただいて、平和を感じ取っていただくことも一つのやり方だと思う。
- ・ そうしたコンベンション施設や宿泊施設が広島にあって、平和を切り口としたコンベンションが必ず開催できるようなまちになれば、それは一つの大きな要素になるのではないかなと思う。
- ・ また、私たちがまちづくりを進めていく上で、町内会などの組織に参加される方が非常に少なくなっている。それと同時に、商店街等の振興組合等に参加していない店舗も多くなっている。
- ・ そうしたことから広島県や広島市にもお願いしたいことだが、加入促進条例のようなものを作っていただきたいと思っている。

- ・ 静岡市などでは取り組んでおり、あまり、うまくいっておらず難しいところもあると聞いているが、街の活性化、まちづくりに皆さんが参加して、皆さんで考えて、良い方向に持っていきましょう、皆さんでやっていきましょうといったことについても、この中に書いていただければと思う。

【谷村委員（代理 下平地域振興担当部長）】

- ・ 被爆 100 年が 2045 年と言うことで、そこを見据えていくことはなかなか難しいが、商工会議所では、平成 6 年に 56 年後を見据えた「広島湾ベイエリア海生都市圏の創造 2050 年構想」を策定している。
- ・ その圏域の範囲は資料 1 の範囲とほぼ同じであるが、広島市を中心に、周防大島や呉などを含めて、広島湾の開発、地域連携を進めていこうといった構想である。
- ・ 将来像が誰もが行き来でき平和を感じるということで海生新都といった名前がつけられており、目指す姿も「賑わいや交流を生み出す」や、「中四国の発展をリードする」といったことが書かれている。
- ・ 今回の将来像については、同じ方向性にあるものであり、商工会議所としては、非常にありがたく思っている。
- ・ 取組の方向性については、少し具体的な例ではあるが、商工会議所の都市機能強化委員会で検討している中で、一つ目は大阪の難波にある湊町リバープレイス等のように、川に面した広場と飲食を中心とした施設が欲しいというものであるが、広島駅前の猿猴橋の周辺や商工会議所の周辺などに、そうした施設ができれば良いなと思う。
- ・ 二つ目は、同じく大阪の道頓堀から 5、6 分の所に黒門市場という場所があり、外国人をターゲットとしたイトインということで、非常に多くの人集めており、広島にもそうした機能がいるのではないかと思う。
- ・ 三つ目は、広島湾ベイエリア海生都市圏構想は、現在も続いている構想であり、現在、中・高生の修学旅行、特に民泊を中心とした誘致活動を行っているが、大体のケースが広島で一泊して平和学習を行い、江田島や周防大島、安芸太田町などに散らばって体験学習等を行うといった流れであり、肝心の広島市だけが、そうした体験学習ができる施設があまりない。広島西飛行場跡地などが候補になるのかもしれないが、川や海に面した場所で、カヌーやシーカヤックなどを体験できる施設が欲しい。
- ・ 最後に、広島市では、非常に綺麗に川の整備が行われており、特に猿猴川や京橋川などの周辺を自転車で走っていると、綺麗な場所があり、鳥などがいてとても良いが、一方で人が全然なくて、誰のために作った河岸かなといった思いがある。そうした場所についてサイクリングロードを含めて整備が必要ではないかと思う。

【野田委員（代理 松浦地方事業評価管理官）】

- ・ 本日は目指す姿と言うことで、三本の柱が提示されているが、考え方について行政的な感覚で言わせていただくと、一番目は都心の姿、機能と言うことでどういうことを目指すのか、二点目は、移動と言うことで、賑わいと交流をどのように作っていくか、三点目はソフト面

でどのようにバックアップして行くか、そのような組み立てになっているのではないかと感じたところである。

- ・ その中で、過去の懇談会でも議論があったと思うが、誰をターゲットにこの将来像を描いていくのか、といった観点からいくと、目指す姿の二番目は「来訪者や市民が往来しやすく、回遊できる」、三番目は「生活できる」といった意味合いと市民ニーズに対応できる」と書いている。
- ・ 誰をターゲットにしていくのかということについては、誰もが享受できるような姿を描けば良いのではないかと考えている。この辺の表現についてはもう少し考えていった方が良いのではないかと感じた。
- ・ それと、交通に関係して、参考資料に周辺の自治体職員からのアンケート結果で、駐車場の整備や渋滞の緩和が要望として挙げられている。
- ・ 交通の立場からすると、都心の駐車場はそれほど少ないかなと疑問に感じており、結構充実しているのではないかと、ただ知られていないのではないかとこのことを感じている。
- ・ 渋滞の緩和といった観点では、どちらかと言えば都心部ではなく、広島都心部に入ってくる入り口のところで渋滞しているのではないかと。
- ・ 市内でも、雨の日や日曜日などでの特異日は、駅前のスペース等で駐車できる時はあるが、どちらかと言うと都心部に入ってくるところでの渋滞で、そうしたことがこうしたアンケートの結果に現れているのではないと思う。
- ・ 都心の渋滞について考えると、どちらかと言えば、例えば4車線ある道路のうち、商店側の1車線がタクシーや荷さばきなどの車によって潰れているということが、都心部の渋滞に拍車をかけているというように思える。
- ・ 今後はそうした所をどうするかということを考えていければと思っている。

【野原委員】

- ・ 大きく分けると二点。
- ・ 一点目は、昨日の夜、座長と懇親した際、冗談のような話をしていたが、ダイエットで一番効果があるのは、ある意味で、レコーディングダイエットのようなものかなといった話をしていた。
- ・ つまり、どういうことかと言うと、今、自分がどういう状態になっているかを正確に知るということをきちんと重ねることは、すごく大切で、単純に体重が変わってなくても、自分が食べて運動してきた履歴を見て、どのようなことによってそれに至ったかをきちんと見ないと、実際に目標としているものに進んでいるかどうか分らなくなる。
- ・ そうした意味では、今回、データは充実しているが、こうした情報の読み込みによりしっかりと方向性をつけるというか、読み込んでいくことが大事になるのではないかなと思う。
- ・ この資料2を見てみると、特性や課題といったところから、本当にこの目指す姿につながっているのか、きちんと読み込めるのかということをもう少し考えていく必要があるのではないかと考えた。
- ・ 例えば、建物更新等のことを見てみると、オフィス空室率はあまり高くなくて、新しい施設

があまり建設されていないということがわかるが、この情報が、本当に先ほど説明があったような、あべのハルカスのような開発という目標に、本当に繋がるのかというものは少し疑問に思う。

- 例えば、事業所も減っていて、空室率も減っている一方で、建物も変わっていない、といった状況であれば、オフィス同士が多く合併したのか、オフィスがオフィス以外の用途、商業施設等に変ったか、例えば、オフィスの量自体が減っていたら分母が減るので、空室率も減るかもしれないし、となると、オフィスを増やさなければいけないといったことにつながるかどうか？ということを実際に考えていくこと、つまり、本当に今、必要としているものは何かを見極めていくことが必要であると思う。
- 本当に何かをやっていくことになり、(事務所等を)やっていく場所が本当にないのであれば、それをどのようにして作ってあげるかということがすごく大切になってくるわけで、どのような市街地の方向とするかみんな考えていくということがすごく大切になってくると思う。
- このような情報は、資料の中に山のようにある。例えば、広域的公共交通の状況の資料を見ると、広島では結構な船舶の便数があるということだが、これはおそらくたくさんの島とつながっているということになると思う。これを見て、交通手段が弱いという見方だけでなく、こうしたつながりが、地域の魅力として広島を中心部ともつながっていて、これをうまく活かしていたら、いろいろなことができるのではないかなという視点が必要である。
- 居住に関しても、人口が増加しており、都心で住宅の供給が高まっているのであれば、当然、都心の人口は増えるのだけれども、そのように言いながらも、空き家率は増えていると言うことをどのように捉えて考えていくのか。
- また都心の人口が増えても、その人たちが外に出てこなければ、賑わいには全然寄与しなくなってくるわけで、そうした意味でそのような人たちが、引きこもりにならずに外出したくなる、非常に魅力が溢れるような街になるにはどうしたら良いのかを考えていくべきである。
- 回遊というの、まちなかを回遊していないと言うのは、本当にアクセス（移動手段の不便さ）の問題なのか、そもそも、行きたい魅力的なところがないのか、そういうところも考えて行かなければならない。
- ファッションブランドのデータに関しても、例えば、石見にある、現地発の「群言堂」といった小さなライフスタイルショップが20年前にできたが、今は東京をはじめ各地に出店している。資料にある分析のように、ブランドの店舗数で決めるのではなく、広島発でやっていく、それこそ逆に、関東や関西からお客を取っていくような、そんなことが出来るような場所がどれほどあるのかということを見ていかなければいけない。
- このように、情報分析の中にたくさんの宝が眠っていて、これらを是非うまく生かしながら、この将来像、目指す姿に繋げていただきたい。
- もう一点は、将来像について、特に、この右側の都心の将来に求めるものと言うことで、ワールドカフェでの意見も含めてであるが、これについてもやはり具体的なイメージが少ない。
- 先ほどエッジが取れてしまったといったご意見もあったが、具体的に書いてあるのは川か平和か自転車ぐらいのこと。
- 後は、当然、みんなで作ってゆくべき魅力に対する言葉ではあるが、どの都市で掲げても

同じであろう内容となっており、目指す方向としてはその辺の具体的なイメージ、はっきりとこれを打ち出していきたいと思いますというものが見えないと方向性がなかなか見えてこないのではないかと思います。

- ・ 最終的にはこの将来像のとおり、多様な方々が生き生きと過ごせることが大事だと思うが、戦略として動かすには、何度もご意見にあったように、「誰もが」の「誰」が「誰なのか」、ということを明確にしながら、何か打ち出していけないと、「多様」が「無用」になってしまう。
- ・ そのようにならないように、是非、具体的にどういう人たちに、具体的な対象に向けて、広島らしいまちづくりができるかということを引き続き考えていったら良いのではないかと思います。

【平尾委員】

- ・ 一つは、このような会議に出席させていただくために、広島のことを少し勉強しようとホームページで調べてみると、この種の会合が本当に多いことに気づく。
- ・ 中心市街地活性化であったり、賑わいづくりであったり、たくさんあるが、今回の懇談会の特徴としては、広島都市 60km 圏内の 200 万人の人たちがその中心にやってくる、大きなエリアで考えなければいけないといったことが、今までの中心市街地の会合と比べて少し違うのかなと思った。
- ・ 広域で考えると、鍵となってくるのは、まずその方たちの多くが車でやってくるということ。パーキングはあるけれども知られていないのではないかといったことを、松浦代理委員がおっしゃられていたが、広範囲から訪れる人々の動きについて、一度、勘案しておく必要があると思う。
- ・ その上で、どのような街にしていくか。自転車専用レーンや、歩行者専用道路、こうしたことを考えていくということもこの会議での目的の一つなのかなと感じた。
- ・ もう一つは、先程、佐藤委員がおっしゃられていたが、エッジということ。
- ・ 市長も「選ばれる街広島」ということを盛んにおっしゃられているが、あまり悪く言っているといけないが、提示のあった将来像は、「誰もが生き生きと輝き、平和を感じる都心、静岡」と別の都市名を入れても通用してしまう。これが広島であるということ、もちろん平和というキーワードは「広島らしさ」ではあるが、あまりにも無難ではないか。この将来像を見て、やはり広島だなと言うことが、言葉が一般的すぎてよく分からない。
- ・ 新しいキーワードがない中で、これで本当に人を惹きつけていくことや、私達のような NPO が、様々な人を動員して地域に関わっていこう、自らつくっていこうとするには、少し弱い。もう少し広島らしさ、新しさを強調していただきたい。
- ・ まちづくりには交通インフラの充実のように、当たり前にはやらなくてはいけないことも多々あるが、それにプラスして、ピラミッドとして 10 段ある中で、上の 3 段は、広島らしさということで、エッジをきかせていかなければいけない、分けて考えてもいいのかなと思う。

【塚本座長】

- ・ 広島の当事者ということで、例えばというものがあれば、今の段階での思いつきでも結構なのでお願いしたい。

【平尾委員】

- ・ 資料2の「将来に求めるもの」の下から二つ目に書かれているように、「ひとの力と魅力」ということであれば、例えば、海外から来た人々が広島を見たときに「70年前に一度壊滅的な被害を受けた街にも関わらず、現在は人が活き活きと暮らしている」と驚くようなことを言われる。草木が生えていないと思っていたが、たくさんの人が元気に暮らしている、それを見るだけでも元気になるということを時々海外の人は言われる。
- ・ その中での、一つの活動として、先日の中国新聞にも書かれていたが、広島市中央部商店街振興組合連合会の活動として、海外から来た人々の買い物のガイドをするといった取り組みがされている。
- ・ また、私たちひろしまジン大学も広島市と一緒に、広島駅の構内で外国人ガイドを行っている。このようにソフトとして街を盛り上げ、発信していくような活動というのは、ある意味、ハコを作るよりもすぐに、思いがあればできること。
- ・ このように、今動いているもの、ネットワークを作っているところも含めて、すぐにできる部分もあるのではないかと思う。後は、見せ方の問題だと思う。

【藤波委員】

- ・ この資料を見て感じたことであるが、やはりビジョンとして、求めるものとして、総花的な印象はどうしても拭い切れないように感じた。
- ・ 当然、優先順位が出てくると感じる中で、将来像として、国内外から人を惹きつけること、その中で「平和」ということが中心に据えられるという話になると、やはり外国人観光客というものは、重要なプレイヤーになってくると想定される。
- ・ 特に欧米系の方が多いといったお話もお伺いするが、その時に、広島の街が彼らにとって、魅力的かどうかは少し考えなくてはいけないと思う。
- ・ 川辺の整備や、平和大通りといった形で、一見はすごく欧米的なまちづくりがなされているように感じるが、実際はそのような場所に人をうまく誘導できていないといった実態があるということもお聞きしている。
- ・ それについて、私も昨日、駅に近い京橋川の辺りを歩いていたが、やはり誰もいないといった状況にあったので、その通りだなと思った。
- ・ 寒いといった理由もあるとは思いますが、普通にあのような場所が通勤として歩ける場所になっていければと思った。それに伴って、外国人観光客もつられて歩くということだと思う。
- ・ インフラは十分にあると思うが、いかに外国人、欧米系の観光客を惹きつける魅力を出していくかということは、民間の力が非常に必要になってくると思う。
- ・ これからは、民間の力を上手く生かせるような場所といった視点で地域づくりを進めていけば良いのではないかと思う。

- ・ 例えば、先ほど福岡の話があったが、福岡などは外国人を引き込むとともに、アジアのハブになっていくということを明確に据えて、民間活力をどのように働かせていくことができるかという視点で地域連携を図る取組もされている。
- ・ そうしたことから、民間活力を取り込んでいくことを一層推進していく、こうしたことを念頭に置いた将来像が必要になるのではないかと思う。

【山田委員】

- ・ 質問を一つと、簡単な意見を述べさせていただきたいと思う。
- ・ 参考資料 1 に、人口移動の広島と福岡市の比較があるが、転入の超過が 20 歳代や 30 歳代といった若者が多いといったことはよく分かる。
- ・ これは数こそ違い、広島市も同じ状況であるが、福岡市の 50 歳代での転入超過、これは完全に広島市と福岡市とは状況が違う、この背景にあるものは何か分かれば教えていただきたい。
- ・ 60 歳代になったら転出超過、60 代歳以上については定年によって地元に戻るのかなといった感じはする。

【塚本座長】

- ・ どなたか理由がわかれば教えていただきたい、どのように読んだら良いのか。

【事務局】

- ・ 60 歳代の方々が定年によってリタイヤされて、地元に戻られるといったことは、事務局でも分析した。
- ・ 一方で、この 50 歳代の人たちが、福岡市ではなぜ増えるのかといったことは、確かに疑問に思ったが明確な理由については導き出せなかった。

【山田委員】

- ・ これは、一つの鍵ではないかと思っている。なぜ若者ではなくて、50 歳代の人たちが福岡市に入るのか、50 歳代を惹きつけるのは何かといったことが、質問させていただきたかった事項である。
- ・ 意見としては、皆さんも言われているが、将来像について。
- ・ 商工会議所の下平代理委員から、何年か前の構想の方向性が一緒なので良かったといったお話があったが、例えば連続性といった意味ではある程度、共通項がなければバラバラになってしまうので、もちろん同意する部分もある。
- ・ 一方で、例えば、1 回目の懇談会の時に 30 年位前に初めて広島に来たというお話をさせていただいたが、駅前は閑散としていた。それと比べて、本日、ホテルの屋上から広島駅周辺を見学させていただいて、30 年でこれほど変わったのかと思った。
- ・ この計画についても 30 年後を見据えているとなると、この 30 年の間に、広島駅の周辺はこれほど変わった、これからの 30 年を考える時に、先ほど平尾委員もおっしゃられていた

が、どこの地域の名前を入れても大体通用するような将来像で良いのかといった気もする。

- ・ 誰もが生き生きと輝き、平和を感じる都心というのは、10年前でもそうでしたと言われても、そうだろうなと思うし、50年前でもそうだろうなと思う。
- ・ これから新しく都心の未来を創っていこうとする中で、何かインパクトとなるような表現や文言が入っていた方が良いと思う。
- ・ その時に、私は将来像の中の縦のラインで見たときに、先ほど藤波委員がおっしゃられていた民間活力をテーマにあげたいと思う。
- ・ エリアマネジメントの推進と書かれているが、よくよく調べてみると、広島ではエリアマネジメントはまだまだスタートラインにも立ってない状況だと思っている。
- ・ 前回の懇談会で、都心のまちづくり年表と駅周辺と紙屋町・八丁堀周辺の様々なまちづくりの内容と誰がやっているかの詳細な資料があったが、あれを見ると、都心のまちづくり年表に記載されている事業のなかで、おそらく本当の意味でのエリアマネジメントでされたものは無い。
- ・ 町内会や商店街組合、NPOなどが、それぞれに関心のあるエリアで様々な活動を、個々にされている状況が、今の広島市のまちづくりの現状なのだと思う。
- ・ ワールドカフェのイベント時に、小林重敬先生がエリアマネジメントについて講演され、東京や横浜、福岡、外国などの推進事例を紹介されたが、とてもとても広島市で行われているようなレベルではなく、民間活力をととても効果的に、重点的に推進されていて、広島市では、これこそが今後本当に重要なのではないかと感じる。
- ・ こうしたエリアマネジメント組織をもっともっと育てていこうとすると、そのための行政支援を組み立てていかなければならない。
- ・ ホテルの屋上から、広島駅周辺を見学させていただいたが、あれほど素晴らしい再開発が行われていながら、以前、佐藤委員がおっしゃられていたように、憩いの場所、緑や市民が憩える場所というものは、広島駅周辺には無いなと思った。
- ・ 紙屋町・八丁堀、あるいは、平和記念公園や中央公園など、あまり活用されていないような場所をエリアマネジメントの力で活用していく、先ほど、京橋川の河川空間のように作ったはいいいけれども誰も使っていなかったという話があったが、やはりそこは、エリアマネジメントで進めていくと、民間がその先の活用の仕方まで考えていくようになると思う。
- ・ 言いたいことをまとめると、この将来像は曖昧であるということと、これから広島市にエリアマネジメント組織を作って育てていこうといった、もう少し強いプッシュが見えるようなものが必要なのではないかと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。要するに、この目標というものが、民間の方を掻き立てるようなものではないといけないといったご指摘だと思う。

【事務局（広島県 竹中局長）】

- ・ 将来像として国内外から人を惹き付けつけるといった考えをご提示していただいているが、

これまでの皆さんご意見もあり、県としても是非といった思いがあり、非常にありがたく思っている。

- ・ その上で、目指す姿ということで見てみると、観光客や買い物に来る人といった一時滞在の人のことが少し目立っていると思う。
- ・ さらに進んで、そこで働く人、起業や商売をする人、暮らしていく人、まさに本格的にやってくる人も増やしていくことも重要な視点であるし、それによって更に人が人を呼び込むことも、都市の魅力も溢れるのかなというようなこともあり、今後はさらにそのようなことも含めて、議論していければと思うので、よろしくお願いします。

【事務局（広島市 宮原局長）】

- ・ たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。
- ・ 色々いただいた意見の中に、ターゲットをどこにするかといった話があった。
- ・ 広島の都心部といったことを考えると、都市の核ということを意識して捉えたときに、市民生活の場、あるいは連携中枢都市としての中心地、中四国地方の拠点中枢都市と、様々な性格を持っている。
- ・ それぞれの切り口で見たときに、どういう形で満足されているのかといった視点が必要かなと思う。
- ・ 一つは、当然のことであるけれども、ここに広島の市民の方々が生活する場の中心といったことでもあるので、そうした生活者にいかに満足していただけるかである。
- ・ 都心を見たときに、先ほどからあるように、県内の他の市町の方や外国人観光客ということでインバウンドとか県外や海外の方々に満足していただけるレベルまで上げていくことで、生活者の満足度やステータスにも繋がっていくのではないかといった捉え方をしている。
- ・ ターゲットをどこに絞っていくのか色々意見いただいたが、これからは少子高齢化や人口減少を考える中で、交流や人が集う場所をいかに大事に持っていくかということを検証して、各政策に繋げていきたいと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。終りの時間に近づいているが一人ずつ発言をいただいた中で、言い足りていないところもあるのではないかと思います。
- ・ もし、一言二言、付け加えとか、他の方の発言を聞かれて、こんなことを聞きたいといったことがあれば、どなたでも結構なので自由にご発言いただきたい。

【藤波委員】

- ・ 意見ではなく、先ほどの山田委員の人口移動に関する質問の件で、確たるものはないが、多分こういうことだろうといったお話をさせていただきたいと思う。
- ・ 50歳代で福岡市が転入超過になっており、広島市は逆なのは、どうしてだろうということだが、人は大体、60歳位になると定年退職を迎えて動き出す。必要に応じて、実家に戻ったり、後期高齢者になると逆に都心に移動するといった動きが出てくる。

- ・ 実は60歳になる前から、多くの人は動き始めている。早期退職のこともあると思うが、50歳代で仕事を変えている人が結構多く、データでは50歳代後半で動き出しているという傾向がある。
- ・ これがプラスに出るかマイナスに出るかは、地域特性によって異なる。昔は学生のアルバイトが中心であったコンビニエンスストアやレンタルビデオ店では、最近では、比較的年齢の高い方々が働かれていることが多い。
- ・ これは、早期退職の後、高齢者になる前に、こうした仕事に就く人が多くなっているためであり、こうした動きの中で、たまたま広島市は出ていく人が多いということになったと考えられる。

【塚本座長】

- ・ 逆に福岡では、こうした方々を吸収しているといったことか。

【藤波委員】

- ・ はい、こうした方々が少し働きたいと思えるような仕事が福岡にはたくさんあるのかもしれない。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。ぜひこのことは、事務局の方でも追求していただければと思う。
- ・ 皆さんも、将来像を設定していく上で、他都市の事例も含めて発言をお願いします。

【野原委員】

- ・ 私は別のところから来ているので、広島らしさということについてはまだまだ勉強していかなくてはいけないと思っているが、先ほどからお伺いしていると、横浜とも似たような状況で繋がる部分もあるなと感じていた。
- ・ 横浜も、MICEを目指していて、いろいろな活動をやっている。
- ・ また、横浜は、東京が目前にあるので、中枢性というか、惹きつける力をどのように確保していくかについて、ずっと悩んできた歴史がある。
- ・ 横浜でも、東京に近い方に住む人たちは、横浜都民とも呼ばれ、横浜駅の中心部にはあまり来ないといった状況がある。
- ・ 特に、最近はいろいろな私鉄が横浜まで乗り入れていて、東京に向かっていくといった状況があり、横浜の中心に、どのように人を呼び込んでいくのかをいつも悩みながらやっている。
- ・ 人がどのような動きをしているかを見ながらも、今まで50年間かけて、横浜の中心として、また、東京の周辺としての両方の視点から、横浜の中心と周辺のあり方について探りながら築いてきた歴史がある。
- ・ 「みなとみらい」も、だいが都市にはなってきたけれども、50年前に横浜の中心とはなんぞやと考えてきた結果が今に繋がっていたりする。
- ・ そうした意味で、2045年、30年後といったお話があったが、30年かけて200万人広島

都市圏と、広島とのつながりをどのように作っていくかというようなことを、ここでしっかりと考えていくことが必要なのではないか。

- ・ 大きな流れの中で考えていくことも必要であると思うが、一方で、先ほど佐藤委員が言われていたように、様々なボランティア、小さな動きというか、これを積み重ねていくと、すごく大きな力となっていくはずなので、そうしたところも見過ごさずに、小さな力をどのようにして大きな形に変えていけるのかといったことを考えていくと良い。
- ・ 先ほど言った話とも重複するが、都心部の渋滞の話など、私は広島に住んでいないので、実際にはどういった感覚なのかかわからないが、一方で震災復興をしながら街づくりを進め、大きな道路がたくさんあり、これ以上車線などを増やしても何も変わらないと思う。むしろ渋滞が増える可能性もある。
- ・ それよりも、街の中の空間、自分たちがその場をどのように使っていくかといったことを併せて考えていくと良いのではないかなと思う。
- ・ それこそ平和大通りも、もったいない。もっといろいろなことができる空間ではないか、そんな可能性があるのだけれど、上から見ると、都市の骨格にはなっているが、動線といった意味では外れており、本当に都市の骨格になっているのかと言われると、そうっていないかもしれない。
- ・ そのように、もっともっといろんな在り方を見つめ直していくことにより、眠っている様々な要素が見えてくる。
- ・ 先ほど、大阪の湊町リバープレイスの話がもあったが、大阪は、本当に色々と活動しており、最近では西側の中之島 GATE、入り口の手前のところの空いていた川沿いの土地で民間も含めた朝市のようなものを行っており、とても多くの人を訪れている。今の大阪は、そのようなことを一生懸命していて、水都大阪として盛り上がっている。
- ・ 水辺と食べ物が絡んでいるが、そうしたものを掛け合わせていくことで、魅力の創出が行われていたりする。
- ・ しかし、よくよく考えてみれば、そうしたことを実践していたのは広島の方が先で、まさに川沿いの河川空間を、どのように店舗として活用していくかといった歴史がある。
- ・ 広島の方が先にはやってきたわけではあるが、それが今にあまり繋がっていないというか、伸びきっていない、プラスアルファの相乗効果までは至っていないといったところで、先程の河川空間が少し寂しいねといった話にも繋がってくると思う。そうした場所をどのように皆で結集して盛り上げていくか。
- ・ マーケットリサーチをして、人がいないからやらないではなくて、本当にここを次の一歩として、みんなで生み出していく、魅力的な場所やあり方は何かといったことも考えた上で、少し、アクセントとして魅力を作っていくというように、そうした場所が、都心の将来像の話に導けるところがあると、皆で合意できるようになるのではないかなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 今日話を色々お聞きすると、広島ではこれまで作られた街をこれからどのように使いこな

して、次の30年に備えるかといったこと。

- ・ 特に、皆さんから出てきた意見として、民間の方、市民の方がどのような形で、都心づくりに関わるかといったことが、一つのテーマにもなってくるのではないかと思う。
- ・ エリアマネジメントなども含めて、皆が同じような思いを抱けるような都市像をしっかりと考えていかななくてはいけないのかなと思う。
- ・ 我々のこの計画づくりは、そうした意味で非常に重要なのではないかと思う。
- ・ いずれにせよ、この懇談会はまだまだ次回も続くということで、今日の意見を踏まえ、事務局でいくつかの整理をしていただいて、また議論を積み重ねていければと思う。

【事務局】

- ・ 本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。
- ・ 本日、いただいたご意見等を参考に、事務局の方で検討を進める。
- ・ 先ほども民間の方の力を生かすといった話があったが、そうした民間レベルで意欲的に活動されている方を第4回の懇談会にお呼びして、意見をお聞きするということを考えている。ご賛同いただけるか。

— 全委員から反対等の意見なし —

【事務局】

- ・ ご賛同いただきありがとうございます。
- ・ 分野としては、商業関係の方、文化関係の方、起業支援の方などを考えているが、それ以外にも、こうした分野の方々を招いたほうが良いといったご提案があればいただきたいと思う。

— 提案なし —

- ・ 今、急に言われてもということもあるかと思うので、また、皆様からメール等でご意見をいただきたいと思う。
- ・ 人選については、塚本座長と事務局で相談するということで一任させていただければと思う。
- ・ 第4回懇談会にお招きする方のご提案を含めて、追加の意見等があれば、2月16日（火）までにお願いする。
- ・ 次回の懇談会は3月の開催を予定している。詳細な日時・会場等については別途連絡させていただく。
- ・ 以上をもって、第3回懇談会を閉会する。ありがとうございました。